

2022年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 山崎 悠太郎 ]

学年・組・番号 [ 3年 E組 25番 ]

研究課題: 愛媛県上島町弓削島における持続可能な地域活性化

(英文) Sustainable Community Revitalization in Yuge Island of Kamijima Town, Ehime Prefecture

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

愛媛県上島町岩城島、弓削島、魚島を中心に島嶼部における地方創生の問題点を調査し、持続可能な島嶼部の発展、地域活性化の具体的な方法を見つけ出すということをテーマに設定する。瀬戸内海島嶼部に関する研究は多くなく、また、本土からかなりの距離があっても本州・四国との間で架橋されている島が多いなど他地域の離島よりも特殊性があると考えられる。研究手法は、まず、他地域の地域活性化の事例の収集や、上島町で行われている活性化事業と地域(島)おこし協力隊の活動、上島町への交付金や町の一般会計予算の調査を行い、上島町の現状や日本の離島地域の現状についての理解を深め、課題や問題について検討する。続いて実地調査を行い、事前に収集した情報の裏付けや、島民や関係者への取材、島民に対するアンケート調査を行う。そして実地調査の結果を踏まえて、上島町における離島活性化の持続可能性について分析を行う。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

事前調査を行う段階で、弓削島は愛媛県に属しつつも、経済圏は広島であるということが分かった。さらに、一般的な離島とは異なり、陸地部にアクセスが容易であり、町内の他の離島との間で架橋されているなどの特殊性があり、他の地域で行っているような「遠距離である」ということに着目した技術開発や観光資源の開拓といった地域活性化を行っても効果が薄いと考えられた。そこで実地調査では、観光協会や港で島民や来島者にアンケート調査を行うことで、弓削島における来島者の属性を検証し、本来呼び込みたいはずの広島県陸地部からの来島者はほぼいない反面、弓削島から広島県陸地部への人流は完全に形成されているという結果を導き出すことができた。それを踏まえると、現在行っている観光のための愛媛県と広島県の広域連携だけではなく、経済圏や生活圏も県境を越えているということ考慮し、資金や人材という面でも広域連携していく必要があると考察した。すなわち、県境離島においては、その島の周辺地域一帯で、資本や人の「流出」だけではなく、「流入」を形成する必要がある。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3年E組25番山崎悠太郎

研究分担者

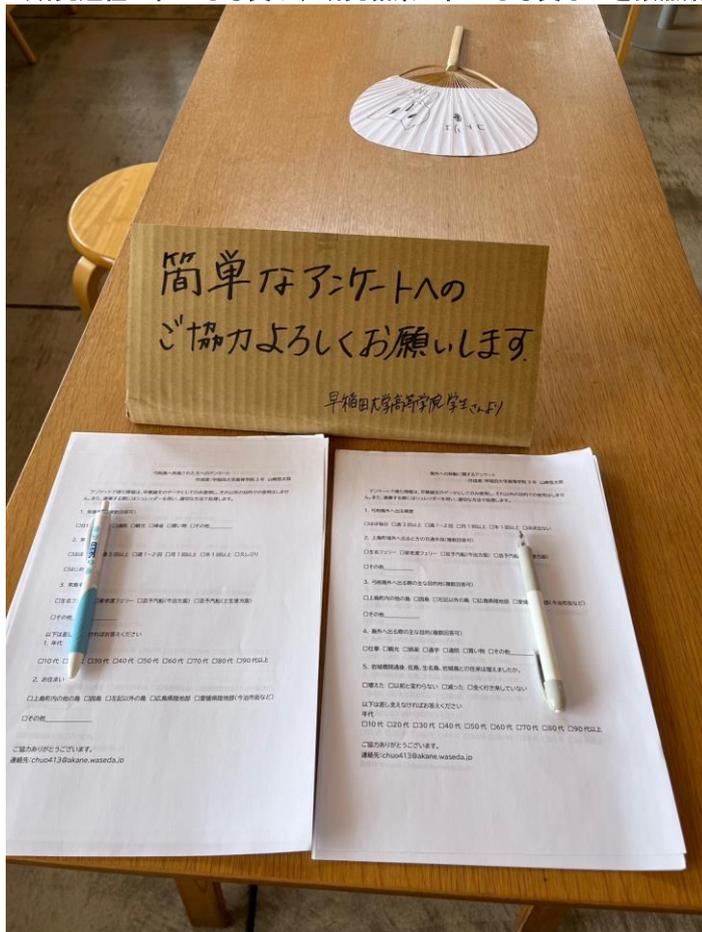
担当教諭 柿沼亮介

(受給額: 25000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上